



シネマネキ



2011年8月 第2号
(抜粋版)

cinemaneki

ママシネマ『ファンタジア』

ディズニーの名作アニメには、3人とも幼い日の記憶がよみがえります。最後はウォルト・ディズニーの心意気に感服でした。

よね

ママシネマ、次はディズニーなんだね。

ひぐ

そうなんだよ。

しぶ

『ファンタジア』って、観たことないかも。

よね

ミッキーが魔法使いの弟子になるの、観たことないの？

しぶ

あー、ある！たしかクラシック音楽に合わせたアニメだっけ？

ひぐ

うん。ミッキーが出てくるところが有名だけど、その他のシーンはかなり動物や自然を描いた美しいアニメだよ。

よね

そうそう。音楽を映像で表現するというのを、初めにやった作品かもね。曲もいいし何度も観れちゃうから、実は私、一人暮らしをして初めて買ったDVDが『ファンタジア』だった。

しぶ

へー。ウォルト・ディズニーは、最初アニメーターだったんだよね。

よね

最初は映画製作会社に雇われて、アニメ製作に関わって、アニメをつくる会社としてウォルト・ディズニー社を起業したんだって。

ひぐ

それが今じゃ、すごいことになったよね。

よね

今のディズニー映画はテーマパークやグッズとかの複合的な販促が前提だけど、この時期の作品は、単純に映画に何かできるかを考えてる気がするよね。ファンタジアは世界で初めてのステレオ音声でできた映画だし。

しぶ

いやあ、でもこのディズニーの音楽もの映画は、吹奏楽部にはたまらないんだよね。

よね

11人の監督、60人のアニメーター、投入されたスタッフはのべ1000人で制作に3年かかった

って、書いてあるよ！

ひぐ

そりゃあ、すごいのできるはずだよね。

しぶ

ふんふん。ディズニーは「この映画は私が死んでから何十年も楽しめる作品になるだろう」って言っていたんだ。すごい！

よね

作家とは、そうあるべきだよね。自分の表現欲だけじゃなくて、死んだ後にも残るものを作ってほしいね。

[赤ちゃんを連れて映画を楽しもう！ママシネマ](#)

[『ファンタジア』](#)

美しい顔写真に感嘆しながら、座談が始まりました。劇場で行なわれる名画セレクションに一体どんな人が足を運ぶのか、想像するだけでわくわくします。

しづ

山本富士子さん。きれいだね～。

ひぐ

昭和美人っていうか…。

よね

この方、第一回のミス日本なんだよ！ミス日本としてアメリカでマリリン・モンローとかと対面して、アメリカでも美女と話題になったらしいよ。

しづ

女優特集っていいねえ。渋い。

ひぐ

毎月一人ずつ取り上げて、十一人の女優を取り上げてるよ。〈憧れただけで、幸せだった。〉っていうキャッチコピーも、ストレートでいいよね。

よね

おお、去年は男優特集やってるよ。

しづ

『私は二歳』っていう、タイトルもいいね。

ひぐ

市川崑 監督だ！

よね

子どもの目線で描かれてるのかな？

しづ

違うんじゃない？（初めての子どもに夫婦が翻弄される姿を描いているから）お母さんの話だよ。（映画では、子どもが生まれてから2歳になるまでが描かれています。）

ひぐ

近所のお母さん達観に行くのかな？

よね

三鷹市芸術文化センターの現代の演出家が演劇の新作を発表したりしているホールで、たまに映画上映があるっていうのもいいね。

ひぐ

その施設の専門のことだけじゃなくて、たまにでいいから映画が観れるとか、他のジャンルのものがあると、足を運ぶきっかけになるよね。

しぶ

この時代の映画を観ていた、おばあさん、おじいさんも来るかな。

ひぐ

それ素敵だね。

『日本の女優』ラインナップ

- 田中絹代
- 久我美子
- 香川京子
- 山本富士子
- 京マチ子
- 山田五十鈴
- 淡島千景
- 高峰秀子
- 杉村春子
- 岸恵子
- 原節子

CINEMA SPECIAL

日本の女優 山本富士子

憧れだけで、幸せだった。

『白いリボン』@ パルテノン多摩

シネマネキでは、いままで扱ったことのないタイプの作品に3人とも興味津々。日常ではは起きてほしくないのに、怖いことや不思議なことを映画だったら観たくなるのが不思議です。

ひぐ

これは、今まで取り上げなかったタイプの作品だよね。

よね

サスペンスというか…。

しづ

へー、夏っぽいね。あ、予告編が観れるよ！

| 予告編を観る |

しづ

あー、なんか昔の映像っぽいね。

ひぐ

製作年は、最近だけどね。でもモノクロだね。

しづ

でもなんだろう、日本の古典って現代人がやると自然な感じにならないのが多いけど、なんかすごいね。

よね

落馬事故！馬が出てくる映画って、結構おおいよね。西洋の映画における、馬についての論文ないかな？きっと面白いよ。

しづ

不思議な映像ね、日常の動作なのにこの違和感。

よね

「既に古典」っていうコメント、すごいね。

| 予告編終了 |

しづ

パルテノン多摩も、複合施設だね。

ひぐ

古典芸能とか、ワークショップもいっぱいやってるね。

よね

そして、目の前にシネコンがあるよ！

ひぐ

でもだからこそ、シネコンでは観れない作品が扱えるのかもね。

しづ

がんばってほしいね！

『白いリボン』

パルテノン多摩

夏のルーフトップシネマ 2011 vol.1 ～ CLASKA × Kino Iglu ～

2011年7月25日（月） 19:30～ @CLASKA

前から行ってみたかった、野外上映会！野外と言ってもいろいろありますが、今回は都会な感じ。目黒にあるホテルCLASKAの屋上にてKino Igluさんが行なっている〈ルーフトップシネマ〉に行ってきました。19時開場の会場は夕日が沈み、夜景がキレイになっていく頃。屋上には大きなウッドデッキがあり、壁に投影された作品を、寝転んだりしても見れるようになっていました。マットを持ってきている常連さん(?)もいらっしやいました。

さて、気になる上映作品は、佐藤雅彦さんの短編映画集『kino』。過去8年間のKino Igluさんの中で最も人気の高く、現在ではVHS、DVDともに廃盤、レンタル店での取り扱いも全くない、まさにお宝映画！ここでしか観ることのできない!?幻の1本だそうです。私は、佐藤さんの最近のお仕事、NHKの番組『0655』『2355』が大好きなのですが、佐藤さんが映画作品を作っていたとは知りませんでした。

さて、そんな気の利いた作品紹介話などを聞きしながら、ビール片手に『kino』の上映開始です。『kino』は6つの短編から構成される映画集です。

1. オセロ
2. ホテルドミニクの謎
3. 反抗期
4. おばあさんの天気予報
5. ポイント
6. 大人の領域、子供の領域

作品の舞台はルーマニア、キャストも現地のみなさん。佐藤さんの絵コンテにぴったりな場所を探した時に、ルーマニアになったとか!?日常の中のちょっとした事（佐藤さんの視点が良い!）をテーマに、老若男女がクスッと笑えるものばかりでした。音楽も知っているものや、民謡など頭に残るような感じなのも良かったです。

6作品が上映され終わると、夜空には星がキラキラ瞬いていました。

終わってからも少しの時間、屋上は開放されていて、夜空を見ながら2杯目を飲み余韻に浸りました。そして『kino』の付属の本（こっちがメイン?）も見せていただく事が出来ました。

もう一度見たい！手に入りたい！みんながそう思う作品でした。いつかまた、Kino Igluさんに見せてもらおう!!なんて次回を楽しみにしながら家路につきました。（しぶ）

夏のルーフトップシネマ2011 ～ CLASKA × Kino Iglu ～は今後vol,2、vol,3とあるそうです。みなさん是非、夏の屋上上映会を楽しんでみてください。

夏のルーフトップシネマ 2011 vol.1 ～ CLASKA x Kino Iglu ～

『kino』

CLASKA

Kino Iglu

cinemaneki 2011年8月 第2号 (抜粋版)

<http://p.booklog.jp/book/33208>

著者 : cinemaneki

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/cinemaneki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/33208>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/33208>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.